

紙コップからトイレトーパー

～資源を循環、思いも循環～

奈良マラソンでは第4回の2013年大会から、紙コップメーカーと連携し、給水所で使用された紙コップゴミをトイレトーパーにリサイクルする取り組みを行っています。

リサイクルの流れは、以下の通りです。

- ①メーカーから購入した紙コップを全給水所に配備
- ②ランナーは使用した紙コップを専用のゴミ箱に分別廃棄
- ③給水所のボランティアが紙コップゴミのみを袋にまとめ、レース後、メーカーの回収車が全給水所を巡回し紙コップゴミを回収
- ④リサイクル会社が紙コップゴミを再生しトイレトーパーを製造
- ⑤大会は、リサイクルされたトイレトーパーを購入し、会場やコースのトイレに配備

紙コップもトイレトーパーも、マラソン大会では膨大な量を使用しますが、毎年、本取組を継続することで、焼却されるゴミを削減して、新たな製品に生まれ変わらせ、それを消費するという、資源の循環につなげてきました。

リサイクルにかかるコストは、一般的に使用される紙コップと再生紙トイレトーパーの購入費だけで、本取組を実施しない場合に比べ、経費の増加はありません。紙コップゴミの処理費用が減る分、コストは低下しています。

本取組は、資源の再利用という環境問題対策だけではなく、他にも大きな効果があると考えています。

奈良マラソンの給水所周辺は、紙コップゴミの散乱が少なく、非常にきれいと言われることがあります。これは元々、規範意識の高いランナーが参加していることが大きいですが、事前の参加案内でリサイクルについて周知することで、紙コップ専用ゴミ箱の意味合いを十分にご理解いただいていることもあると考えています。

給水所で従事するボランティアにとっても、ゴミの分別は負担になりますが、今まで一度も不満の声もなく、分別を徹底していただいています。

本取組は、ランナーとボランティアがお互いに協力し合わないとは実現できません。ボランティアの分別の取組に応じてくれるランナー、ランナーの協力に感じ入り支援を惜しまないボランティア、この思いと思いの循環こそが、私たちが当初想定していなかった、もう一つの効果であり、そこから奈良マラソンならではの温かい雰囲気は育まれていると考えています。

マラソン大会は、健康増進、観光誘客、地域経済活性化等の恩恵をもたらす事業ですが、一方でさまざまな物資を必要とし、大量のゴミを発生させる一面があります。その一面を改善すべく9年前から奈良マラソンが実施してきた本取組は、SDGsの国際目標、特に「つくる責任、つかう責任」に合致すると考えます。

なお、奈良マラソンでは、会場やコースで廃棄された段ボール、ランナーが出走直前まで着用し放棄する防寒衣類も、ゴミとして廃棄するのではなく、再生資源として、リサイクル事業者へ回収を依頼しています。

SDGsを通じてマラソン大会が活力ある豊かな未来の実現に貢献できるよう、奈良マラソンは今後も引き続き、さまざまなチャレンジを行っていきます。

